

地域医療連携室だより

地域医療支援病院 登録医療機関 624 件

2015 年 6 月



登録医療機関
600 件達成！！
小雀小児科医院に
訪問させていただきました。



こども医療センターの看護局の取り組み — 退院支援リンクナースの活躍 —

看護局長 森内みね子

“子どもの最善の利益を考え、看護を提供します”これは、当センターの看護局の理念です。看護局は、4月1日、この理念に向って共に歩む 76 名の新たな看護師を迎えました。病棟内は、新鮮で明るく爽やかな風が吹いています。少子超高齢化の進展等に伴い、小児医療体制が激動している中で、看護局は、新たな体制でこれまで以上に「**看護の質**」「**経営の質**」「**チーム医療の質**」に積極的に力を入れていこう！と意欲を新たにしているところです。



今回は、新たに各病棟に配置した「**退院支援リンクナース**」について紹介します。医療の高度化に伴い医療的ケアが必要で高度医療機器を持ち退院することも達が増加していることは言うまでもありません。医療的ケアが必要な子ども達が地域や在宅で生活することは、病院の生活から地域社会の生活にシフトする関わりが求められ、それは子ども達にとっても家族にとっても簡単なことではありません。さらに、小児の在宅支援は、社会生活の広がりや子ども達の成長発達に応じて起こる問題が様々であることも特徴です。在宅支援等をより充実させていくためには、病院の中で子どもや家族の傍で継続して関わってきた看護師が、どのように役割を發揮するのが鍵だと考えています。その役割を担うのが『退院支援リンクナース』です。現在、4階西病棟、5階西病棟がモデル病棟となり積極的に院内外の関係職種との**チームカンファレンスの開催・調整・繋ぎ**の役割を担い、**退院調整・在宅医療支援等の推進**に効果をあげています。

今後はさらに、チームカンファレンスやチーム医療は、地域全体をチームと捉えた考え方が浸透され、退院後訪問看護など、病院内の看護師の役割は地域や在宅に向って拡大していくと考えています。これからも、ひとりひとりの看護師が**小児看護のプロフェッショナルの自覚と自負を持ち、高度急性期医療から在宅医療支援に繋げる役割を發揮していきたいと考えています。**

あなたの「げんき」と「えがお」のために皆で力を合わせましょう！”



小児救急キッズセミナーの取り組み

救急診療科 林 拓也

院外心停止におけるバイスタンダー心肺蘇生(CPR)により、蘇生率、社会復帰率ともに向上しています。一般市民に対するバイスタンダーCPR 講習や啓蒙活動はよく普及している一方で、学習指導要綱に「心肺蘇生法の教育」が組み込まれているにもかかわらず、学校で心肺蘇生法の教育が十分行われているとは言えません。当院救急診療科は、病院事業として 2013 年 1 月から「小児救急キッズセミナー」を行い、小中学生への蘇生シミュレーションを行っているのので、その活動、意義についてご報告いたします。

応募のあった小学校・中学校に出向して、小学校高学年、中学生に対し、蘇生人形を用いて蘇生シミュレーションを行います。1 回あたりの参加者は 30~40 人、インストラクターは医療従事者 4~5 名で、授業の一時限(約 50 分)を用いて行います。

① デモンストレーション

インストラクターが、蘇生人形を用いながら、バイスタンダーCPR を説明します。説明途中で、インストラクターの 1 名が突然倒れ、残りのインストラクターで実際の蘇生をデモンストレーションします。



② シミュレーション

会場に、胸骨圧迫、人工呼吸、AED の各ブースを設置し、参加者を 3 グループに分けて各ブースをローテーションします。

③ 模範演技

最後に、各グループから代表者を募り、参加生徒の前で、「学校から友達と帰宅途中に、人が倒れていた」という設定で、蘇生シミュレーションを行ってもらいました。

蘇生シミュレーションは、成人用と小児用の 2 種類の蘇生人形を用いて行いました。



胸骨圧迫：小学生、中学生とも、小児用人形では十分な圧迫深度を保てましたが、成人用人形では体格の小さな小学生や女児で深度が不足する傾向がありました。

人工呼吸：バリアデバイスの効果か、男女問わず照れずにほぼ全員人工呼吸を行うことが出来ました。小学生、中学生とも、小児用人形では十分胸郭が上がっていたが、成人用人形では中学生であっても胸郭の上りが不十分である生徒が多かったです。



A E D：小学生、中学生とも、十分有効に使用可能でした。また、大多数の生徒は学校内での **AED** 設置場所を把握していました。



後日行ったアンケート調査では、

- ・「心肺蘇生で大事なこと3点は？」の質問に対し、「人を呼ぶ」「救急車を呼ぶ」「胸骨圧迫をする」「**AED**を探して持ってくる」などの回答がほとんどで、蘇生に対する初期対応は十分理解できていると考えられます。
- ・子供たちの感想は、「大人になってもできるので、いい体験となった」「人が倒れていたら助けたい」「**AED**の使い方がよくわかった」「説明者が急に倒れて緊張した」と肯定的な意見が多く見られました。
- ・教職員の感想は、「自分たちは1回 **CPR** 講習を受けているが、蘇生の現場で実際できるかは不安」「生徒に **CPR** を教えるのは自信がない」など、学校での蘇生行動あるいは心肺蘇生の指導に対する不安が多く見られました。
- ・中学生に、各手技に対する自己評価を5点満点でスコアリングしてもらいましたが、シミュレーション前後でいずれの手技も改善しており、蘇生シミュレーションの意義があると考えられます。

(1) 蘇生シミュレーションの意義

救急隊が到着するまで胸骨圧迫や人工呼吸を続けることの物理的負担を実感してもらうことで、一人ひとりの個人で蘇生行動を行うのではなく、迅速に人を集めることの重要性を理解してもらうことができました。学校管理下の突然死は体育の時間や運動部の部活中に多く発生しており、心肺停止の場面に必ず教職員がいるとは限らないため、生徒に蘇生シミュレーションを学んでもらうことは十分意義があると考えます。

(2) 医療従事者が小中学校で蘇生シミュレーションを行う意義

学校教育指導要綱に **CPR** 教育が盛り込まれているが、小中学生への **CPR** 教育は不十分であるのが実情です。その理由の一つに、教職員の、自分たちが **CPR** 教育を行うことへの不安が挙げられます。医療従事者が学校で **CPR** 講習を行うことで、生徒に「活きた」**CPR** を教えると同時に、教職員に「**CPR** 教育」の模範を示し、今後学校の **CPR** 指導に役立ててもらえると考えています。



当院の「小児救急キッズセミナー」の開催を希望する学校が徐々に増えており、ボランティアでインストラクターを希望する院内の医療従事者も増えています。今後は、小学生・中学生への救急蘇生講習を県広範囲で継続できるよう、医療機関や医療従事者のご支援をいただきたいと思います。

神奈川県立こども医療センターの基本理念と基本方針

1 基本理念

こどもの健康の回復及び増進と福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

2 わたしたちのちかい

あなたの「げんき」と「えがお」のためにみんなでちからをあわせます。

3 基本方針

- (1) 患者さんの命と安全を第一に考えます。
- (2) 患者さんと家族とともに医療を行います。
- (3) 高度、先進的な医療を行うとともに、積極的に臨床研究に取り組みます。
- (4) こどもの発育、発達を考えた療養環境、教育環境を整えます。
- (5) 周産期・小児医療と保健・福祉に携わる人材育成に努めます。
- (6) 地域の関係機関と連携し、周産期・小児医療の充実、向上に貢献します。
- (7) 透明度の高い病院運営と情報公開に努めます。

神奈川県立こども医療センター・研修のご案内

第40回 循環器連携カンファレンス

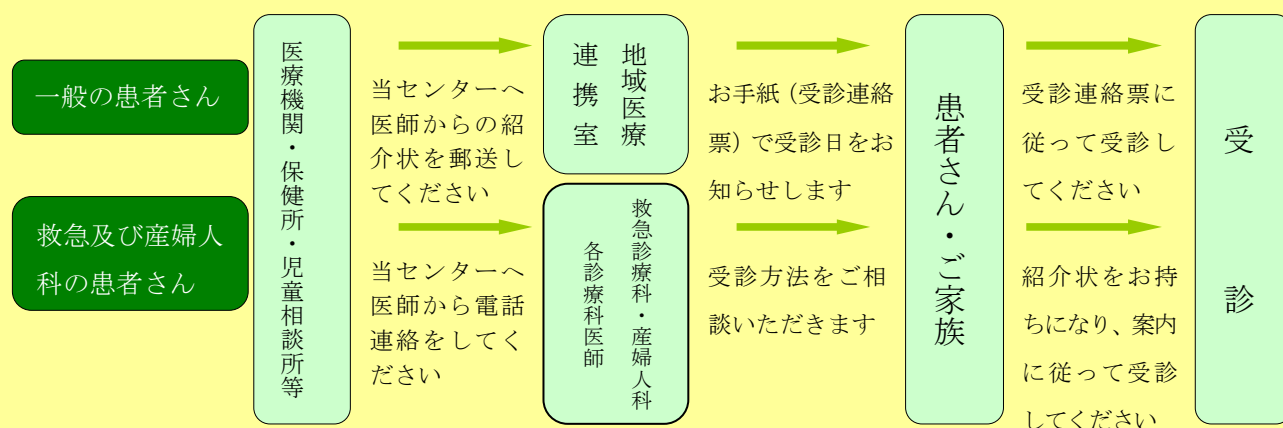
- ☆ 日時：平成27年8月7日(金)19:00~21:00
- ☆ 場所：当センター本館2階講堂
- ☆ お問合せ：地域医療連携室
- ※ 詳細はホームページに掲載予定

第10回 小児重症例検討会

- ☆ 日時：平成27年10月9日(金)19:00~21:00
- ☆ 場所：当センター 本館2階講堂
- ☆ お問合せ：地域医療連携室
- ※ 詳細はホームページに掲載予定

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等の医師からご紹介いただいた患者さんが、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※紹介状の添付資料(画像やフィルム等)も紹介状と併せて事前にお送りください。

※紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください

編集・発行

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室
〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL 045(711)2351 FAX 045(710)1933
<http://kcmc.kanagawa-pho.jp/> ホームページのリニューアルをしました。

